

別府市温泉ワーケーションレポート

日本航空株式会社
地域活性化推進部
大槻 政直

はじめに温泉ワーケーションへのモニターツアーをご提案頂き、数々のお世話を頂きましたことに感謝申し上げます。別府市の皆様、別府市観光協会の皆様、そして柳屋の皆様、誠にありがとうございました。

レポートは第1章として、ワーケーション（WORK+VACATHION の造語）がテレワークの延長であると仮定しその違いを比較しながらすすめ、第2章で別府（鉄輪）温泉と他の温泉地又は観光地との比較を行い、最後に第3章として、温泉ワーケーションの商品化に対する可能性を記載します。

第1章：テレワークとワーケーションの違い

①テレワークとは

テレワークは一般的に個人の自宅において、例えば小さなお子さまの面倒を見ながら、又はご両親の介護を行いながら、等個人個人が様々な理由により、生活と仕事の時間を共有する働き方であり、その意味では有効活用されていると思われるものの、まだまだ日常的にテレワークを行う理由が必要であるとも考えられる。よってこの2例の状況に於いてワーケーションを捉えた場合は、小さなお子様ケースも、介護ケースも、どちらも、ワーケーションには適さないのかもしれない。

しかしながら、今回初めて体験し、多くの発見があり、新たな可能性を感じたことから以下のようにワーケーションを捉えてみたいと思います。

②ワーケーションとは

観光地又はリゾート地に短期間又は長期間滞在しテレワークを行う、癒しと仕事の時間を共有する働き方であると感じました。

まず初めに、通常のオフィス以外で仕事を落ち着いて行うケースは稀であり、今回宿泊した『柳屋』様のような宿泊施設の、8名掛け木製テーブルに8名で一同に会し、個々の仕事を行う環境に戸惑うと思いましたが、30分も経過しないうちに違和感は無くなっていました。（ここで言うところの違和感が無いのは集中して仕事を行うことが出来た、の意味で用いております。）この感覚を参加者に尋ねてみたところ、おおむね同じ感覚であったと思います。おそらく通常業務に於いてフリーデスクスタイルであることも影響していると思われますが何はともあれ、数人で行う場合でも集中出来ることから、1名であれば更に効率は上がるのではないかと感じました。

では、今回のワーケーションのようにどこでも同じように集中し仕事を行えるのだろうか？と考えた場合、初頭に記した癒しの観点から、今回のワーケーションが2日目の午後に行われ、その前日には2回、ワーケーション当日の午前中には1回温泉入浴を行い、近隣の散策を行っていたことが集中力を高められた主要因ではないかと考えています。もちろん静かな環境下で仕事が行えることは最低限必要な条件となります。癒しと仕事の時間を共有する働き方では、ONとOFFの切り替えがより鮮明であるほど業務効率を高められるのではないかと、つまり、Wi-Fi環境があり、デスクがある場所ならどこでもよい

わけでは無いと考えられるのです。

第2章：別府（鉄輪）温泉と他の温泉地又は観光地との比較

第1章でワーケーションは、仕事の ON と癒しの OFF が鮮明であるほどより効率的な癒しと仕事の時間を共有する働き方が可能になると記載しましたが、一口に癒しと言っても個人差があり多種多様な癒しの要素を必要とし、すべての条件を追求することは非現実的なため、ここでは一般的に多くの方が癒しと感じる温泉がより有効的であると捉え、他の温泉地又は観光地・リゾート地と比較してみます。

まず、一般的な観光地は短期周遊型が多く、そもそもワーケーションには不向きです。そこで短期より長期の滞在に適したリゾート地の代表格であるハワイや沖縄との比較となりますが、両リゾート共に海という癒しの要素を含むことから、ワーケーションには効果的かつ有効的であると感じられました。

つまり、リゾート地はワーケーションを実現するにあたり特にリスペクトしなければならない重要なロケーションとなるわけです。よってリゾート地にはない要素（ここでは温泉）を効果的に打ち出し、癒しの海・別府湾を眺めることが出来る温泉施設も含むことから、エリアを広げた別府八湯すべてを対象とした打ち出し方を行うことがとても重要であると考えます。

又、同じ温泉地との比較を行った場合も、先ほど記載したエリアを広げた別府八湯が差別化を行う上で非常に重要な要素になると思います。様々な泉質の温泉が分散し、多種多様な効能を期待できる温泉地は限られており、散策という要素を観光と捉えることも可能となれば、より有効的な発信が魅力的に行えるのではないかと感じました。

第3章：温泉ワーケーションの商品化に対する可能性

最後に、1・2章でワーケーションに関して記載した通り、商品化への可能性は少なからずあると思います。そこで、可能性をより高めるために改善点を以下のように取り上げ今後の展開に期待したいと思います。これまで癒しの部分で“温泉”については記載しましたので、ここではもう一つの重要要素である“食”について鉄輪温泉で特色のある“地獄蒸し”をより効果的に利用するために、

① 一般的に湯治場の要素を含むことから、お客様自身が調理を行うわけですが、よりおいしく・より簡単に頂ける調理方法を、地域とともにレシピを開発しご案内できるようになれば良いのではないのでしょうか？場合によっては『地獄蒸し調理大会』などを開催するのもよいかもしれません。

又、散策も脳の活性化に有効であることから

② 近隣の散策コースマップなどをさらに充実させる必要も感じました。名所もさることながら、レトロな小路や、ローカルな食堂の紹介も構成要素の重要な一部であると思います。

次に、別府八湯を巡る2次交通の充実は欠かせませんが、

③ 出来ることから行うのであれば、地域間のバスマップ及びタイムテーブルは最低限必要になると思います。

上記以外に、細かな点は多数あるかとは思いますが、一番重要なことは、ワーケーションに対する地域社会や会社・企業がより理解を深めるために長期的に情報発信を行い、認知させ広めてゆく努力が必要であると強く感じました。

最後になりましたが、新たな取り組みである温泉ワーケーションへのモニターツアーへ参加できたことは貴重な体験となり、大変有意義でした。関係の皆様方へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。